
交わした約束。

仔犬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

交わした約束。

【Nコード】

N2653E

【作者名】

仔犬

【あらすじ】

彼女が彼のことを愛していた。しかし2人の前に乗り越えられない壁が…1年前に彼と交わした約束が一体…

(前書き)

この話わすべて実話です。

恋わ自分の思う通りにわいかない…
だから…
追いかけてたり
逃げたりしてしまう

あなたわ本気で人を愛したことがありますか？
人を愛すってどう言う意味かわかりますか？

様々な事件が身近で起こっている
あなたならどこまで乗り越えられますか？

切なくて
苦しいけど
なぜか温かい切なくて
苦しいけど
なぜか温かい…

あの日
あの時間
あの場所で
あなたに出会っていなかったら
私わ人を愛することなどできなかった

あの日

いつもの時間
いつもの場所で
あなたわ人を愛することを教えてくれた

今でも

あの時間にあの場所へ行くとあなたを思いだします

あなたを…

2008年5月3日

今日わいつもより早めの起床。私にとってわ珍しいことだ

—伊藤思禹—

今年の4月高校に入学したばかりの高校1年生徒。 仲良しで気が
合う友達ができ、充実した毎日を過ごしていた。

頭がいいわけでもなく、特別可愛いわけでもない

けど夢わ大きい

東大にいくこと。

掛け算わ指を使わないとできないような人間が東大を目指して毎日
頑張っています。

恋したい年頃。でもなかなかいい人が現れない

中学のときわそれなりに恋して、付き合った人もいた。

だけどどの恋も短期間で終わりを告げていたと言う共通点があった。

本当の恋を知らなかった私

恋なんてしなくてもいい、そう思っていたのに

そんな中…あなたに出会い

本当の恋

いや、本当の愛を覚えてくれた。
あなたとの出会いで私の人生が黒から白へと変わっていった…

しばらくボーとしてふと我に戻り時計を見たら電車出発時間まであと2分

やばい！

急いで家をでて全力で駅まで走った

ふう

なんとか間に合った。

朝が苦手な私にわ電車通学かなりの難…。
でも学校が楽しい。だから眠いのを我慢

電車の窓から外を見ていたら
公園が目にはいったのだ

*あの公園……
帰りにちよつと寄ろうかな…*

電車を降りて歩くこと20分 無事学校に着くことができた。
1日部活でかなり疲れた。
スーパーで花を買って電車に乗った

公園まで…あと少し
電車を降りてしばらく歩いてたら公園が見えてきた
あの時の光景が蘇る。

深呼吸をして花ギョツ握り、中へと入っていった。
滑り台の近くにベンチある。後ろの木の付け根に花を優しくおいて、
その花を見つめた。

ベンチに座りあの時のことを思い出した。

2007年5月3日

ちょうど1年前のこの日、私わあなたと付き合い、楽しく毎日を過ごしていた。あなたわ野球部、私わ吹奏楽部でなかなかお互いの休日が合わなくてデートわ月1・2回しかできなかった。そこで、2人だけの待ち合わせ場所をここに決め、毎日夜家を抜け出してここで会って話したりしていた。

付き合って2ヶ月。いつもと変わらず夜家を抜け出して公園へと急いだ。いつもならあなたが先にベンチに座って私を待っているのに、今日わその逆みたい。
私わベンチに腰をかけた。

10分…

20分…

40分…

来ない…

来ない…

1時間待っても彼わ姿を現さなかった。
私わゆっくりその場を去った。

翌日、彼に聞いてみた。

昨日どうしたの？
と、

そして彼わ

ごめん。寝てた

目が游いでる。すぐに嘘だとわかった。

あ…そうなんだ。疲れてるんだね…無理しないで

私わ深く追求しなかったが少し不安になってきた…

移動教室のときだった。

忘れ物をしたから急いで教室に戻ろうと 階段を下りた。が、私わ立ち止まった。目の前で彼と私の友達がキスをしている。

体が動かない…

どうしょ…

みたくないよ…

しばらくして彼わ私に気づいた。私わ逃げるようにして教室に向かった。

どうして…

どうして…

凄く悲しかった

心臓に矢が刺さったように感じた。

夜会って話そ…

そう思いながら授業をうけた

そして

いつもの時間に

いつもの場所に來た。

彼わいなかった。

私わ待つことにした。

10分…

30分…

50分…

來た！

1時間遅れだけど、来てくれた。嬉しかった。凄く嬉しかった。言葉に表せないくらい嬉しかった。またいつもの私達に戻れると思った。

でもあなたわ私に

わかれよう

と言った

私わ何も言えなかった。一滴の涙が地面に落ちたのがわかった。

*どうして…ひどいよ。もう私のこと嫌いになったの？違う子と付

き合うの？*

と私わ彼に問いかけた

違うよ…お前のことわ好きだよ。てかお前ぢゃないと嫌なんだ。でもな、お互いが本気ならまたいつか何処かで出会えるような気がするんだ。今わ勉強もだけど部活も頑張らなくちゃだし、俺お前の友達とキスしちゃったし…お前と付き合つてると罪悪感が感じるんだ。だったら別れた方がいいかなと思って…ごめんな

どうしてこんなこと言うのかがわからなかった。

あなたを失いたくない…

ずっと一緒にいたい…

ただそれだけなのに…

ただそれだけ…。

わかった…ばいばい

と言って公園を後にした。

苦しい…

怖い…

私わ誰…？

自分が自分ぢゃないみたい…

もう死にたい…

家に帰ったあと手首を切った。意識が遠ざかっていく…

気がつくと病室で寝ていた。

私死んでない…

どうして…

死なせてよ…

死なせて…

友達がお見舞いに来てくれた

なにやってるんだよ！みんな心配したんだよ！本当に死んだらどうするんだよ！

泣いてる…

友達が泣いてる…

*どうして泣くの？

私悪いことなんてしてないのに…

ただ死にたいだけ…

私わ弱い…

弱い人間なの…*

私わ思っていることを何も考えずに口にした。

強い人間なんて1人もいないよ。死ぬってことわ逃げるってことだよ！あいつから逃げてるってことだよ。そんなでいいの？

彼から逃げてる

確かにそうかもしれない

でも逃げるのわ卑怯だよな。

ごめんなさい…

涙が溢れる…

もう1度やり直したい…

もう1度だけ…

もう1度やり直すことにした私わいつもより元気に学校に行くことにいた。

毎日楽しい。

生きてて良かった…

本当にそう思っている。

あの人学校休んでるみたい。

風邪かな…

おい！お前あいつの見舞いとか行ってる？

振り返るとそこにわあの人の友達のかずきがいた。

なんのこと？

と言ったらかずきわ

お前知らないのか…？あいつ今入院してるんだ…癌だつてさ…最初冗談だと思ってたけど本当みたいです。夜無断で病院でてどっか行ってるみたいなんだ。

驚いた。

嘘でしょ…

嘘だと言って…

お願いだから

嘘だと言ってよ…
耐えられないよ…
今すぐ彼の所に戻りたい…

* どの病院…？ *

* 〇〇病院だよ。今すぐ行ってやれよ…あいつお前のこと待ってるよ *

* ありがとう。 *

私わ無我夢中で病院まで走った。
どうして…
涙こらえて走った。

病室の前に着いた。

緊張した空気…
中に入りづらい…
私を見てどんな顔するのだろう…
怖い…
でも…

* 失礼します… *

彼と目が合った

* お前…なんでここに… *

彼わ凄く驚いてる。

* かずきが全部教えてくれたの。どうして…どうして言ってくれなかったの…？どうして隠してたの…？馬鹿… *
我慢していた涙が一気に溢れた。 * ごめん… * *

私わ彼の胸に飛び込んだ。

彼わずっとなでなでしてくれた。

懐かしい匂い…

懐かしい温もり…

すべてが懐かしかった…

ただいま

おかえり

また2人で笑い合える。

永遠に…

病院の外出許可をもらった。2人でペアリングを買いにいったあと、あの公園へ行くことにした。

久々に2人で来て、なんか変な感じ。いっぱい話せた。

ねえ、俺こんなだけ結婚してくれる？

彼わ真剣な顔で私に言った

うん。

迷わず返事した。

本当に！？やったあ！まち嬉しい。ありがとう。約束な！

うん。約束！

これが私と彼が交わした約束。そして、最後の言葉でもあった。

その日の夜中、携帯に病院から電話がかかってきた。

今すぐ来てください！彼が危ないです！

私わ直ぐに病院へと向かった。

息切れも気にせず勢いよく病室のドアを開けると彼の周りにいっぱい人が立っている。みんな泣いてる。

なんで泣いてるの…

私わ彼の元へと歩いていった。

みんな…

どうしたの…？

彼わ…

寝てるだけだよ…

涙がボロボロ出てくる。

嘘でしょ…

さっきまで普通に話していたのに…

やだよ…

いかないで…

どこにもいかないですよ…

側にいてよ…

また好きって言ってよ…

ねえ…

起きて…

お願いだから

起きて…

結婚するんですよ…？

2007年11月3日午前1時

彼わペアリングを握りしめながら息を引き取ったのだ。

俺こんなんだけど結婚してくれる？

彼と交わした最初で最後の約束わ今でも覚えている。

彼と付き合ってから私の人生がガラツと変わった。今までずっと短期間の恋しかしたことのない私だったが、彼わ私にとって初めて長続した人であつたし、本当の恋を教えてくれた人でもあつた。

彼のこと、一生忘れることわないだろう…

例え、彼が生まれ変わって違う人と付き合つて、違う人と結ばれて、私のことを忘れても、私わ忘れない。なにがあつても…

今までこの公園にくと彼のことを思い出します。

彼の分まで生きていかないとね！

おしまい

（後書き）

お読みくださりありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2653e/>

交わした約束

2010年10月28日03時48分発行